

TREAT



100gサンプル同梱を想定

機械に入れず、排出後の水で評価

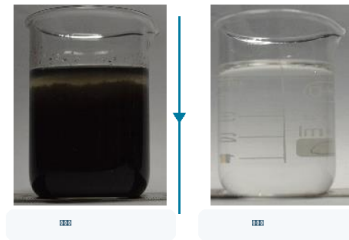
TREAT® 簡易評価キット

回収排水・濁水・洗浄排水を、まずは小さく試す。

床洗浄機・清掃現場・工場排水などで発生する回収排水に対して、TREAT®の凝集・固液分離の効果を簡単に確認するためのガイドです。現場採水または模擬水で、少量から投入量の目安を確認できます。



TREAT® サンプル
簡易試験用



処理前後のイメージ

<https://www.go-recovery.com>

この資料は「社内で残せる」評価ガイドです

TREAT®の効果を理解していただくために、営業説明だけで終わらず、配布後にお客様の社内で回覧・保管しやすい構成にしています。初回は「機械へ入れる」のではなく、排出後の水を外部容器で評価することを前提にしています。

安全側から始める

材質影響が未確認の段階では、機械タンク内へ直接投入せず、回収後の排水を別容器で試験します。

少人数で評価できる

透明カップ・水・TREAT®サンプルがあれば、短時間で上澄み・フロック・沈降の傾向を確認できます。

次の商談につながる

最適投入量の目安、水質写真、処理量を記録することで、実排水処理や装置化の検討に進めます。

評価の流れ

1

採水

実際の回収排水を1~2L採取。難しい場合は模擬水を作成。

2

少量比較

500mL×5本で、投入量を変えて比較。無添加も必ず用意。

3

観察・記録

上澄み、フロック、沈降時間、汚泥量を写真とメモで残す。

4

目安換算

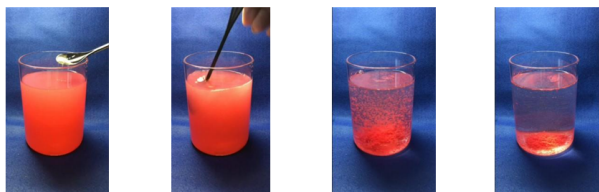
最も良い条件をg/Lに換算し、実排水量で概算する。

重要：初回提案の範囲

本ガイドは、機械内部への投入を推奨するものではありません。まずは、回収タンクから排出した後の水、または別容器に取り分けた水に対する外部処理としてご評価ください。

試験水の準備：現地採水が第一候補です

最も判断しやすいのは、実際の現場で発生した回収排水を使う方法です。清掃直後の排水、洗浄水、濁水など、処理したい状態に近い水をよく攪拌してから採取してください。



A. 現地採水で試す場合

- 回収タンク排水・洗浄排水を1～2L程度採取
- 採水前にバケツ等でよく攪拌し、汚れが偏らないようにする
- 試験はできるだけ採水当日、または同じ状態で保管して実施
- 写真を「処理前・投入直後・静置後」で残すと社内共有しやすい

B. 模擬水で試す場合

- 水道水2Lを透明容器に入れる
- 水性絵の具を少量加え、濁りが見える状態にする
- 細かい土・ほこりを小さじ1程度加える
- 床洗浄水に近づける場合は、中性洗剤を数滴だけ加える
- 濃くしすぎると実排水と離れるため、まずは薄めから調整する

現場で迷わないためのひと工夫

- 容器には No.1～No.5 の番号を振っておく
- 同じ量の水を入れる。おすすめは各500mL
- 無添加の比較用を必ず1本残す
- 評価結果は「きれいになったか」だけでなく「沈降が早いかな」「汚泥が増えすぎないか」も見る

500mL×5本で投入量を比較します

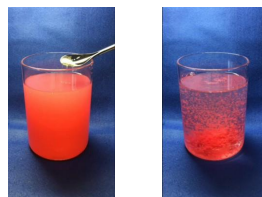
初回試験では、最初から多く入れず、少量から段階的に比較します。粉体を直接量れない場合は、簡易分散液を作ると扱いやすくなります。

No.	試験水	TREAT®目安	簡易分散液で入れる量	確認ポイント
1	500mL	0g	0mL	無添加の比較用
2	500mL	0.05g	5mL	最小量の反応
3	500mL	0.10g	10mL	標準候補
4	500mL	0.25g	25mL	濁りが強い場合
5	500mL	0.50g	50mL	過剰投入の確認

小さな量を測るコツ：簡易分散液

- TREAT® 1gを水100mLに入れる
- 使用直前によく振る・よく混ぜる
- 1mLあたり約0.01gの目安として扱う
- 粉体は完全に溶ける前提ではなく、試験用に分散させて使う

攪拌と静置



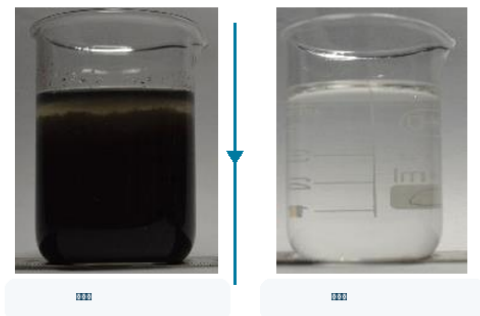
1. 30秒程度しっかり混ぜる
2. 30秒～1分ゆっくり混ぜる
3. 5～10分静置する
4. 上澄み・フロック・沈降状態を撮影する

過剰投入を避けるために

投入量が多ければ良いとは限りません。上澄みの透明度だけでなく、沈降時間、汚泥量、処理後の扱いやすさを総合して、少ない投入量で効果が出る条件を選びます。

「残る資料」にするため、写真と数字で記録します

商談後にお客様の社内で検討していただくには、試験結果を写真と簡単な数字で残すことが大切です。下記の観察ポイントを記録すると、次回打合せで具体的な処理量・運用方法の相談に進みやすくなります。



観察するポイント

- フロックが見える大きさにまとまるか
- 上澄みの濁りが低減するか
- 沈降・分離の時間が実用的か
- 汚泥量が過剰でないか
- におい・泡立ち・pHなど気になる変化がないか

投入量の概算換算

例：500mLで0.10gが最良だった場合

$$0.10\text{g} \div 0.5\text{L} = 0.20\text{g/L}$$

1Lあたり約0.20gが目安

処理量	目安 0.10g/L	目安 0.20g/L
10L	1g	2g
50L	5g	10g
100L	10g	20g
500L	50g	100g

- 処理した水の種類：回収排水・洗浄排水・工場排水・模擬水など
- 試験水の量と、最も良かった投入量
- 処理前・投入後・静置後の写真
- 1日あたり、または1回あたりの処理量
- 処理後の目的：排水・再利用・保管・装置化検討など

次回相談時にあると判断しやすい情報

ご利用上の注意と、次の一步

機械内投入は対象外

本ガイドは回収後の排水を外部容器で評価するものです。機械タンク・配管・ポンプ等への投入は、材質影響等を確認した後に別途検討してください。

飲用化を目的にしない

TREAT®による凝集・固液分離だけで飲用水になるものではありません。必要に応じてろ過・殺菌・水質確認を行ってください。

廃液・汚泥は適正処理

処理後の水・沈殿物・汚泥は、含有成分や社内基準、関係法令に従って取り扱ってください。

正式運用は条件確認後

対象水の性状、処理量、排水基準、設備条件により、最適な投入量と運用方法は変わります。

お客様の社内で検討しやすい導入ステップ

1. 100gサンプルで簡易確認
 2. 実排水で条件出し
 3. 処理量・運用方法の相談
 4. 継続使用・装置化検討
- 販売店様・設備管理会社様・製造現場様など、幅広い現場での初期評価資料としてご利用いただけます。



株式会社リカバリー

岡山発の水処理技術 | TREAT®・RESTORE®

URL: <https://go-recovery.com/>

お問い合わせ：ホームページのお問い合わせフォームよりご連絡ください



Webサイト

試験記録シート（コピーしてご利用ください）

写真と一緒にこのシートを残すことで、社内共有・次回相談・追加試験の判断がしやすくなります。

試験日

試験者 / 部署

試験水の種類

実排水

模擬水

その他

採水場所・発生工程

試験水の状態

例：濁り、色、におい、泡、固形分など

No.	水量	投入量	上澄み	沈降時間	メモ
1					
2					
3					
4					
5					

写真貼付欄

処理前

投入・攪拌後

静置後

総合コメント・次回確認事項